宗教新聞
発行所 宗教新聞社
東京都新宿区新宿5-13-2
〒160-0022
電話 03-3353-2940（代）
FAX 03-5363-5182
郵便振替口座 00130-9-22704
URL http://www.religion-news.net
© 宗教新聞社 2021

購読料（税込）
1部　500円
半年　3,000円（〒共）
年間　6,000円（〒共）

〈社是〉
一、精神革命の旗手
一、宗教連合の具現
一、地上天国の建設

令和3年全国戦没者追悼式

「心を一つに困難乗り越え幸せを」

天皇皇后両陛下が追悼と平和の祈り

日本武道館

終戦後76年の令和3年8月15日に東京都千代田区の日本武道館で全国戦没者追悼式が開催された。当日は、天皇皇后両陛下が御臨席され、菅義偉内閣総理大臣、衆議院議長、参議院議長、最高裁判所長官、各国務大臣、各都道府県代表、関係団体の代表ら合わせて約200人が参列し、約310万人を数える全戦没者に追悼の誠を捧げた。

黙祷を捧げられる天皇皇后両陛下＝8月15日、東京都千代田区の日本武道館

この追悼式は、昭和57年（1982）の閣議決定『戦没者を追悼し、平和を祈念する日』について」に基づき、政府主権の下に行われるもの。

午前11時51分、開会が宣言され、全員が起立して両陛下を迎える。国歌斉唱に続き、菅義偉内閣総理大臣が式辞を述べた。

「祖国の行く末を案じ、家族の幸せを願いながら、戦場に斃（たお）れた方々。戦後、遠い異郷の地で亡くなられた方々。広島や長崎での原爆投下、各都市での爆撃、沖縄における地上戦など、戦乱の渦に巻き込まれ犠牲となられた方々。今、すべての御霊の御前にあって、御霊安かれと、心より、お祈り申し上げます。今日、私たちが享受している平和と繁栄は、戦没者の皆様の尊い命と、苦難の歴史の上に築かれたものであることを、私たちは片時たりとも忘れません。

未（いま）だ帰還を果たされていない多くのご遺骨のことも、決して忘れません。一日も早くふるさとにお迎えできるよう、国の責務として全力を尽くしてまいります。

戦争の惨禍を、二度と繰り返さない、この信念をこれからも貫いてまいります。我が国は、積極的平和主義の旗の下、国際社会と力を合わせながら、世界が直面する様々な課題の解決に、全力で取り組んでまいります。今なお、感染拡大が続く新型コロナウイルス感染症を克服し、一日も早く安心とにぎわいのある日常を取り戻し、そして、この国の未来を切り拓いてまいります」

両陛下は標柱の前に進み深く一礼される。正午の時報に合わせ一分間の黙祷を捧げられた。両陛下に合わせ、参列者が同様に黙祷を捧げた。

天皇陛下がお言葉を述べられた。

「本日、『戦没者を追悼し平和を祈念する日』に当たり、全国戦没者追悼式に臨み、さきの大戦において、かけがえのない命を失った数多くの人々とその遺族を思い、深い悲しみを新たにいたします。

終戦以来76年、人々のたゆみない努力により、今日の我が国の平和と繁栄が築き上げられましたが、多くの苦難に満ちた国民の歩みを思うとき、誠に感慨深いものがあります。

私たちは今、新型コロナウイルス感染症の厳しい感染状況による新たな試練に直面していますが、私たち皆がなお一層心を一つにし、力を合わせてこの困難を乗り越え、今後とも、人々の幸せと平和を希求し続けていくことを心から願います。

ここに、戦後の長きにわたる平和な歳月に思いを致しつつ、過去を顧み、深い反省の上に立って、再び戦争の惨禍が繰り返されぬことを切に願い、戦陣に散り戦禍に倒れた人々に対し、全国民と共に、心から追悼の意を表し、世界の平和と我が国の一層の発展を祈ります」

大島理森衆議院議長、山東昭子参議院議長、大谷直人最高裁判所長官の追悼の辞の後、昭和19年10月に中国で戦病死した、柿原輝治陸軍上等兵の子・柿原啓志氏が遺族代表として追悼の辞を述べた。

「先の大戦が終わりをつげてから、76年という時を数えても、私達遺族は国の為に戦場において、無念にも散華された戦没者の方々のことを忘れることはありません。時代の流れが変わり、戦争という認識が薄れていく今日であっても、なお私たちは失った家族の面影を求め、思いを馳せております。遺族会を結成して、悲しみを力に変え、日本の平和と繁栄を祈ってまいりました。しかし、私達も時の流れと共に年老いて参ります。これからの世代の方々へ遺族の思いをつなげていくために、私たちは今一度力を合わせて平和の大切さを訴えようとしています。今日の平和と繁栄は尊い犠牲の上に立ち、犠牲として亡くなられた人々は今の日本に暮らしている人々と同じようにごく普通の生活を過ごしていた方たちであったことに、どうか気がついていただきたい。そしてその方たちの命が途中で消えてしまい、国の礎になったことに感謝の心を持っていただきたいと思います」

献花となり、菅総理大臣、衆議院議長、参議院議長、最高裁判所長官、日本遺族会会長、各都道府県遺族代表、一般戦災死没者遺族代表、原爆死没者遺族代表、青少年代表、衆議院副議長、参議院副議長、各国務大臣、各政党代表、各団体代表者が戦没者に黄色菊を捧げた。最後に田村憲久厚生労働大臣が献花して、式典は滞りなく終了した。

灯

「わたしの兄弟たち、自分は信仰を持っていると言う者がいても、行いが伴わなければ、何の役に立つでしょうか。そのような信仰が、彼を救うことができるでしょうか。

もし、兄弟あるいは姉妹が、着る物もなく、その日の食べ物にも事欠いているとき、あなたがたのだれかが、彼らに、『安心して行きなさい。温まりなさい。満腹するまで食べなさい』と言うだけで、体に必要なものを何一つ与えないなら、何の役に立つでしょう。

信仰もこれと同じです。行いが伴わないなら、信仰はそれだけでは死んだものです。」（ヤコブの手紙2：14―17）

キリスト者は、目に見えない創造主なる神様の愛が救い主なるイエスの存在を通して現わされたと実感している。生きるにしても死ぬにしても、イエスに倣う生き方こそが信仰者の人生観であり、伝統だと受け止めている。それゆえ、神の愛は、キリスト者の日常生活の行いによって顕わになっていくものとなる。「信仰」は心のうちに留まるものではなく、人々への働き掛けとなり、善き共同体形成へと発展していくことになる。（Ｉ）

例祭でコロナ沈静化祈願

深川八幡祭りの写真展も

富岡八幡宮

神前神楽舞『富岡の舞』の奉納＝8月15日、富岡八幡宮

東京都江東区に鎮座する富岡八幡宮（丸山聰一宮司）は古くから深川の八幡様として親しまれてきた。寛永4年（1627）に創建され、江戸時代には徳川将軍家の手厚い保護を受け、多くの人々の信仰を集めた。庶民の信仰は今日まで変わることなく受け継がれてきた。

8月13日から15日、例祭期間を迎えた富岡八幡宮では、13、14の両日午前9時より「朝御饌祭」、期間中の各日午後3時より「神楽奉奏」が行われた。

15日は、午前11時より本殿内にて例祭祭典が斎行され、日本および世界の繁栄と氏子崇敬者の平安、そして一刻も早いコロナ感染症の沈静化を祈願した。感染症対策のため、総代、崇敬会役員、神輿総代連合会役員が氏子崇敬者を代表して参列した。

祭典は修祓、神饌、祝詞奏上に続き神前神楽舞「富岡の舞」が奉納された。昭和31年に富岡八幡宮の戦後復興を奉祝して作られた舞で、当時の富岡盛彦宮司が謹作した「富ヶ岡　宮居高くも仰ぐかな　朝夕べに　神のみいつを」との和歌に、元宮内省楽長多忠朝氏が作曲・作舞したもの。舞の後、宮司、総代らの玉串拝礼と続き、滞りなく終了した。

昨年は、3年ごとに巡る深川八幡祭りの「本祭り」に当たり、東京オリンピックの開催と重なり鳳輦渡御及各町神輿連合渡御が盛大に行われる予定だった。これがコロナ禍により今年に延期となっていたが、今年もコロナ禍終息の見通しが立たず、やむなく中止。2年後の「本祭り」を待つことになった。

深川八幡祭りの熱気を伝える『わっしょい！写真展』＝8月15日、富岡八幡宮境内

境内での「奉納演芸」「生花展」も中止となったが、伝統ある深川八幡祭りの熱気を伝えようと、神輿総代連合会との共催で『深川八幡祭りわっしょい！写真展』を開催。境内の神輿庫・東屋・特設テントに八幡祭りの情景を写した貴重な写真が約120点展示された。神輿庫も開扉され、平成3年に新調された日本一を誇る御本社一の宮神輿と平成9年に製作された御本社二の宮神輿を間近に拝することができた。

江戸から大正期にかけては紀伊国屋文左衛門奉納と伝えられる三基の御本社神輿が渡御していたが、関東大震災で焼失。その代わりに68年ぶりに新調されたのが御本社一の宮神輿（御鳳輦）。随所に純金や宝石を散りばめた絢爛豪華さに圧倒される。

3年に一度行われる本祭りでは、八幡宮の神様が乗られた御鳳輦が渡御。また、町神輿が大小あわせて百二十数基が町内を練り歩く。そのうち大神輿53基が勢ぞろいする連合渡御は圧巻。担ぎ手の浄めとして水をかける。「水かけ祭り」としても知られる「深川八幡祭り」は赤坂日枝神社の山王祭、神田明神の神田祭とともに「江戸三大祭」の一つ。

天地

今年のコシヒカリの刈り取りは、一週間の長雨で8月17日からの予定が22日からに。風雨で稲が倒れ、溜まった水にモミが浸かって発芽し、出荷できない田んぼもあったが、実った後の長雨だったので、コンバインの操作に苦労した以外は、例年より豊作で安心した。農業が自然に左右されるのは今も変わらない▼登呂遺跡に再現されていた田んぼには、近くで採れる杉材で水路が整備されていた。今ならコンクリートだ。稲作にはそれだけの技術力、労働力に共同作業が必要で、その成功が集落を可能にした▼思い出すのは2月に訪問したインドのブッダガヤで、曲がった畦の麦畑に菜の花が咲いていたこと。こんなほ場では水管理ができないので、良質の米は作れない。農業での食糧自給ができないと、社会は安定しない▼登呂遺跡では自家消費以上に交換用のコメが生産できる豊かさが、防御の環濠や武器を不要にしていた。富の蓄積が階級闘争を招いたのではなく、平和をもたらしたのである▼集落の共同性も共同作業によって培われる。それぞれ一芸に長けた人たちが、互いに協力する関係である。天地子は集団営農に参加しながら、これが日本的民主主義の基本のように思えてきた▼仲間は高齢者ばかりだが、働いているから健康で、健康だから働き、健康長寿型の農業を実践している。ひょっとして、耕作放棄農地が増えている超高齢社会の日本を、このスタイルが救うかもしれない。

社説

日本型資本主義の倫理と仏教

日本資本主義の父・渋沢栄一の肖像が使われる、2024年からの新一万円札の印刷が始まった。『論語と算盤』で知られるように、渋沢は日本型資本主義の倫理を儒教に求めているが、経済学者の寺西重郎一橋大学名誉教授は『日本型資本主義』（中公新書）で、鎌倉時代に易行化した仏教の影響が大きく、それを表現するのに江戸時代の官学だった儒教の言葉を使ったと述べている。

廻向の思想

6世紀に渡来した仏教に国民思想の可能性を見いだし、『法華経』をはじめ在家の男女が主人公の『維摩経』『勝鬘経』の注釈書を著し、推古天皇に講義した聖徳太子以来の日本仏教の系譜からも、その見方は正当だろう。

インドで生まれ中国を経て日本に渡来した仏教は、自分の悟りよりも人々の救済を求める大乗仏教で、利他主義、布施の思想が日本人に広がった。「日本人の最大の発明は村だった」と哲学者の鶴見俊輔が言ったように、風土や心性に根差した共同体の倫理をつくることが、社会生活を営む上で重要だった。人は死を考え、生きる意味を求めるものなので、その根拠を聖徳太子は仏教に発見し、古代国家づくりの基本に据えたのである。

寺西教授は、経済倫理の核心を仏教の「廻向」に求めている。廻向とは、難しい学問や修行をしなくても、日常生活における精進や身近な人への善行が、自身の悟りへの修行になるという大乗仏教の教義で、世のため人のために尽くすことが、ひいては自分の成仏、救いにつながるとした。俗に、働くとは傍を楽にすることと言われる。

ドイツの社会学者マックス・ヴェーバーは、プロテスタントの世俗的禁欲が資本主義の倫理を形成したとした。その基になったのはカルヴィンの予定説で、救済される人間はあらかじめ決まっており、人間の努力や善行によって、変えることはできない、というもの。そこで人々は、「神によって救われているのなら、神の御心に適うことを行うはず」と考え、禁欲的に信仰と労働に励むエートスを生んだという。絶対神を想定するキリスト教社会では、神の栄光を示し、救いを確信するための倫理が必要とされたのである。

それに対して、因縁を大事にする仏教社会では、身近な人のために尽くすことが、社会倫理として定着するようになる。それは古代からの共同生活を通して培われ、稲作によって洗練され、さらに仏教によって意味づけされた。

倫理は社会の発展に伴って深められる。鎌倉時代から貨幣経済が始まると経済社会は複雑になり、人々はそれぞれ一芸を極め、その技や製品を交換することで社会を発展させるようになる。戦国時代に鉄砲が伝来すると、それをすぐに内製化し、分業により短期間で世界一の生産国になるだけになっていた。

江戸時代になって社会が安定すると、そうした社会倫理はいろいろな分野に定着する。京都の友禅染には30近い工程があり、それぞれの技術を身につけた職人が腕を振るい、連携することで優れた作品を仕上げる。それを正しく評価し、対価を支払う消費者も生まれることで、社会全体が経済的、文化的に成熟していったのである。

山本七平が日本的資本主義の形成者として評価するのが、江戸初期の鈴木正三（しょうさん）と中期の石田梅岩（ばいがん）、後期の二宮尊徳である。鈴木正三は徳川家康に仕えた三河武士で、関ヶ原の戦いで功績を上げ、旗本になりながら、武士の時代の終わりを感じ、出家して曹洞宗の僧になった。島原の乱で荒廃した天草の代官になった弟に招かれ、キリシタンに壊された社寺を再建し、農民らの心の復興に努め、後に職業修行論を唱えた。

亀岡の農家に生まれ、京都の商家に奉公しながら、商人の在り方を探究した石田梅岩は、隠居後、私塾を開き、人としての在り様を極める石門心学を樹立した。その教えは弟子たちによって江戸にもたらされ、武士も習うようになる。二宮尊徳は、ひと鍬ひと鍬を修行と思い、節約によって財を蓄え、それを投資することで農業を発展させるよう指導し、多くの農村を復興させた。そうした日本型資本主義の倫理を継承し、明治の日本に実現させたのが渋沢栄一である。

時代の要請に応え

宗教も時代の要請に応えることで歴史的に発展してきた。そうできない宗教は、やがて消え去ったのである。今の時代と人々の在り様を見つめ、その要請に応えようとする努力が宗教にも求められている。

本紙定期購読のお申し込みは

■ご希望購読期間　■氏名　■郵便番号　■住所　■連絡先電話番号　■メールアドレス（お持ちの場合）を明記の上、宗教新聞社宛、はがき、FAXまたはEメールで左記へお申し込みください。

宗教新聞社
〒一六〇―〇〇二二
東京都新宿区新宿5―13―2―4F
電　話03（3353）2940
FAX03（5363）5182
e-mail:religion@sage.ocn.ne.jp
http://www.religion-news.net
※購読料　年間6000円（税、郵送料を含む）

山喜房佛書林
補陀洛信仰の研究
神野富一 著　A五判　五八〇頁　本体一六、〇〇〇円
チベット・アジア各地の補陀洛信仰とその伝播ルート等の集大成
弘法大師聖句集成
福田亮成編　B六判　二九〇頁　本体五、八〇〇円
本書は大師の言葉が読者の心に直接届くよう工夫され、掲示伝道や寺報の種子に最適。
〒113-0033 東京都文京区本郷5-28-5
TEL：03-3811-5361 FAX：03-3815-5554

たま出版
www.tamabook.com
魔のJR中央線
自殺霊の撮影で判明したこと
齋藤 齋霊 著
四六判158頁
定価1，365円（税込）
十年の歳月をかけ、ついに自殺者の霊の撮影に成功。霊能者が書いた自殺防止の書。死んでも痛みは残るもの、自殺者の言い分〝こんな筈では〟自殺をした状態で霊はさまよう、硫化水素自殺、政治家と自殺、自殺の多いJR中央線の謎を解く！
アシレス出版部発行
お近くの書店にない場合は下記へ 送料210円
〒229-0002 相模原市渕野辺本町2-17-14
TEL042（751）2558　FAX042（754）1818

新刊！
人生の苦しみに積極的な意味はあるのか？
『21世紀に生きる日本人のための浄土思想』の出版を記念して、平成26年3月から28年11月までの5回にわたる講演をまとめた著者渾身の生命の書。
私の生命（いのち）の復活
上橋 泉 著
四六判296頁（本体1500円＋税）
日本人の宗教性（霊性）は回復するか？
株式会社 如月出版 販売部
〒152-0023 東京都目黒区八雲2-24-15
ラ リュミエール1F
TEL 03-6657-9000　Fax 03-6657-8999
http://www.kisaragibook.com

自由社ブックレット2
理想の政教分離規定と憲法改正
四六判87頁／本体価格500円
杉原 誠四郎 著
憲法改正を見据えたとき、宗教に関する条項、規定は、真剣に考えねばならない問題である。
自由社
〒112-0005 東京都文京区水道2-6-3
Tel03-5981-9170 Fax03-5981-9171
http://www.jiyuusha.jp/

『先代旧事本紀』の神髄を極めた著者が語る。
足で調べた大和建国の謎。
日本国始め 饒速日大神の東遷
（定価：本体2000円＋税）
大野七三 著
須佐之男尊の出雲国創建後、饒速日尊が32従者と25軍団を従え、九州から大和に東遷して纏向の地に大和国を建国。その時、饒速日尊が配下を募り配置した今も残るその出自と足跡を立証する。
批評社
〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-36
鳳明ビル102A
TEL 03-3813-6344 Fax 03-3813-8990

日本よ、蘇れ
日本神話の知恵
ゆがんだ歴史観、家庭の崩壊、教育の危機…。いま日本は大きな危機に瀕しています。この現状を打破するカギは、実は「日本神話＝古事記・神代」にあるのです。日本神話に満ちあふれる、愛と生命と知恵に立ち返ってこそ、日本の未来は拓けます。あなたも著者といっしょに、「神話の教え」をひもといてみませんか？
出雲井晶 著
●定価1000円（税込み）
●四六並製　232ページ
●発行・産経新聞社／発売・扶桑社
お問合せ先／扶桑社　販売企画部
〒105-8070　東京都港区海岸1-15-1
TEL03-5403-8859
購入申込み　FAX:03-3578-3075

日本宗教の闇
室生 忠 著　四六判・520頁　定価：本体2，000円＋税
拉致監禁による強制棄教との戦い
信教の自由が保障された今の日本で、強制棄教を目的に拉致監禁が行われている。職業的強制改宗屋が家族を巻き込み、信者を拉致し、部屋に監禁して、脅迫的説得により棄教を迫る。特に世界平和統一家庭連合（統一教会）やエホバの証人の信者に被害者が多く、中には12年以上の監禁された人もいる。驚くべき宗教迫害のリポート。
アートヴィレッジ
受注センター
〒657-0846 神戸市灘区岩屋北町3-3-18・4F
TEL078（882）9305　FAX078（801）0006

縄文のパワーフィールドへ
神道よ！今こそ《古来の本物の道》に戻るのだ！
奈良泰秀
エハン・デラヴィ 著
本物のシャーマニズムを日本人が忘れている。神道の潜在力を思い出し、世界に伝えていこう。ケルト民族末裔の意識研究家が、神道のエッセンスを聞き出す。チャネラー、ヒーラー、コンタクティを超える、宇宙と直接つながる知恵は、ここ日本の神道にあり！
四六上製1785円(税込)
株式会社ヒカルランド
〒162−0821 東京都新宿区津久戸町 3-11
電話：03-6265-0852　FAX：03-6265-0853
http://www.hikaruland.co.jp